

報道関係者各位

2021年11月8日

特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム

～今聞きたい、被災地域の長い復興、現場の生の声～
『コロナ禍の災害と復興を“つなぐ”力で乗り切る【地域力強化】のヒント』
(11月16日開催 ジャパン・プラットフォーム「熊本地震被災者支援」成果報告会)

NGO、政府、経済界の連携によって2000年に設立された緊急人道支援組織、ジャパン・プラットフォーム（東京都千代田区／以下、JPF）は、11月16日、特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）と共に、以下のとおり、熊本で展開した【地域力強化】事業の成果報告会を開催します。

2016年4月16日、熊本地震の本震直後から現地入りしたJPFは、国内外における支援経験をもとに緊急フェーズの支援を実施後、同年10月以降、第2フェーズの戦略として、「復興期の仮設住宅支援」、「地元主導の生活再建を支える人材育成」、「人材を支える基盤整備」を3本柱に、地元の人々の力を合わせて復興に向かうための【地域力強化】を目指す事業を展開してきました。

「人材を支える基盤整備」事業は、各市町村域で被災者・支援団体・行政等を“つなぐ”活動をする中間支援団体の存在を【地域力強化】のキーに据え、KVOADと協働、伴走しながら実施。その集大成として、[発災からの支援と復興の知見を、4つの市町村域が自らまとめ記録した各冊子を完成](#)し、2021年7月で終了しました。



益城町の中間支援団体が、完成した冊子を益城町に贈呈 ©九州キリスト災害支援センター

本イベントでは、被災地域の長い復興の日々、漏れのない支援を届けるため、試行錯誤しながら地元のさまざまなアクターの底力をつないできた、4つの市町村域の当事者たちが登壇します。コロナ禍の被災コミュニケーション、つながる香り、地元メディアとの連携、など現場の生の声と体験、学びのトピックを惜しみなく共有します！

近い未来に再び起こりうる国内災害に向けて、地域を“つなぐ”あり方を共に考える機会となれば幸いです。

『コロナ禍の災害と復興を“つなぐ”力で乗り切る【地域力強化】のヒント』
([ジャパン・プラットフォーム「熊本地震被災者支援」成果報告会](#))

- **開催日時**：2021年11月16日(火) 18:00～19:30 （第390回「火の国会議」※拡大版として実施）
- **お申込み方法**：以下お申込みフォームをご記入ください。参加のためのZoom URLリンクをお送りします。
<https://forms.gle/854gJsNJsQXL7AAD9>
 （※切11月16日17:00/「火の国会議」メンバーはお申込み不要。「火の国会議」URLからご参加ください。）
- **場所**：KVOAD 事務所、およびオンライン開催
- **主催**：特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）
 特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）
- **プログラム**：
 - モデレーター：KVOAD 樋口 務
 - ・主催者挨拶 JPF 地域事業部 熊本担当 斎藤 真樹
 - ・各市町村からの成果報告
 - 『コロナ禍の災害と復興を“つなぐ”力で乗り切る【地域力強化】 ～現場の生の声、体験、学び』**
 - 大津町 カセスル熊本 吉田 知司
 - 熊本市 一般社団法人 スタディライフ熊本 水野 直樹
 - 益城町 NPO 法人 九州キリスト災害支援センター 諸藤 栄一
 - 御船町 特定非営利活動法人 バルビー 岳中 美江
 - ・質疑応答
 - ・総括

※火の国会議：熊本地震発災直後に、熊本で支援団体、自治体、ボランティア、メディアなどが集まり、効果的でスピード感のある災害支援のための情報共有や連携を目的に発足。KVOAD が事務局を担い、誰もが参加できるオープンな場として、発災から 2 か月間は毎晩、現在も週 1 回開催し、本会で 390 回目。つながり助け合う、地元主体の復興の要の場として機能しています。



●登壇者プロフィール：

樋口 務（ひぐち つとむ）／特定非営利活動法人 くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）代表理事

大分県日田市生まれ。2001 年より NPO 法人 NPO くまもとに所属。2012 年より 2 年間、熊本市市民活動支援センター総括責任者として、市民活動の基盤整備の推進、NPO と他セクターとの連携のためのコーディネーションの企画立案を手掛ける。2016 年の熊本地震発災直後から、「火の国会議」などを運営し、同年 10 月、「特定非営利活動法人 くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）」を設立。

吉田 知司（よしだ さとし）／カセスル熊本 共同代表（大津町）

熊本市生まれ。ケータリングカーで活動中に、東京で東日本大震災を経験。その後、2013 年に熊本県大津町の錦野郵便局長として着任、熊本地震を経験。以前からつながっていた大津町の若手有志で、2016 年 5 月に「カセスル熊本」を発足し、主に仮設住宅への支援に関わる。現在は、仮設住宅だけでなく、大津町の復興へのまちづくりや、復興公営住宅への支援を行っている。地元住民だからできる、息の長い支援を続けている。

水野 直樹（みずの なおき）／一般社団法人 スタディライフ熊本 理事（熊本市）

岐阜県生まれ。株式会社 時事通信社入社後、熊本に赴任。退職後、株式会社 熊本シティアフエムで「まちづくり・教育・防災」をテーマとする番組のパーソナリティーを務め、現在も担当中。番組取材で知り合った小学校の教師とともに「一般社団法人 スタディライフ熊本」を立ち上げ、民と官のつなぎ役として生涯学習を支援。

諸藤 栄一（もろふじ えいいち）／NPO 法人九州キリスト災害支援センター 熊本ベースディレクター、益城町みんなのボランティアステーション 副代表（益城町）

福岡県生まれ、熊本育ち。2016 年 4 月 17 日、熊本地震直後よりボランティア活動を開始。6 月、NGO オペレーション・プレッシング・ジャパンを経て、2017 年 1 月、NPO 法人 九州キリスト災害支援センター 熊本ベース所属。2018 年 1 月、熊本ベースディレクター就任。2017 年 9 月、熊本県益城町「みんなのボランティアステーション」を発足。官民協働で中長期の支援活動を展開し、毎年起こる災害の緊急支援に携わる。2018 年、防災士資格を取得し、熊本県荒尾市での地域防災活動を展開。

岳中 美江（たなか みえ）／特定非営利活動法人 バルビー 事務局長（御船町）

HIV 感染症の予防・検査相談・ケア・NPO 連携等に、ライフワークとして長年従事。熊本地震では、国際 NGO 緊急支援チームで被災者支援を開始。「火の国会議」で KVOAD 樋口氏と出会い、現在に至る。緊急支援チームで共に活動したメンバーとも、長期的に熊本の復興に携わる必要があるとの考えから、バルビーを法人化。違いを尊重し合える地域づくりを目指す。

斎藤 真樹（さいとう まき）／特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム 地域事業部 熊本、福島担当

民間企業に勤務後、2014 年、JPF に入職。2011 年 3 月の東日本大震災から 2 年間、何もできない日々が続いていたが、2013 年にボランティアで東北に通い始める。もっと支援に自分の時間を使いたい、支援する人にも支援が必要ではないかとの思いが募り JPF へ。熊本、福島を担当。

■ジャパン・プラットフォーム（JPF）について

日本の緊急人道支援の新しいしくみとして 2000 年に誕生。NGO・経済界・政府などが対等なパートナーシップのもとに連携し、迅速かつ効率的に国内外の緊急支援を実施するため、日本の JPF 加盟 NGO を様々な形でサポートしています。設立以来、総額 720 億円以上、50 以上の国・地域における 1800 事業以上の支援実績、企業と NGO の協業の促進、しっかりと活動報告により信頼を築いてきました。各得意分野を持つ 40 以上の JPF 加盟 NGO と情報を共有し、ともに支援プロジェクトを作っています。民間から総額 70 億円以上が寄せられた東日本大震災支援では、被災県の地域連携・中間支援組織とともに地元 NGO をサポートし、復興の体制整備に貢献しています。

■本件に関するお問い合わせ先

特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム（JPF）

地域事業部：斎藤／ 広報部：高杉 TEL：03-6261-4035（広報部直通）

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-6-5 麹町 GN 安田ビル 4F

ウェブサイト：www.japanplatform.org E-mail：info@japanplatform.org

Facebook：[ジャパン・プラットフォーム](https://www.facebook.com/japanplatform) Twitter：[@japanplatform](https://twitter.com/japanplatform)